

1. 調査研究のテーマ、概要

調査研究のテーマ	豊かな人間関係を築く児童生徒の育成をめざして
----------	------------------------

○調査研究のテーマを設定した目的

近年、いじめや虐待など、「子どもの人権」に関する問題が全国的に関心を集めているが、本県においても児童生徒間のトラブルが少なからず存在しており、児童生徒が安心して生活し、学べる、人権が尊重された環境づくりの必要性が高まっている。また、学校教育における児童生徒の学びは若い世代の意識の向上につながるとともに、家庭や地域にも波及することが期待される。

このことから、学校における全ての教育活動全般を通じて、人権や人権擁護に関する知的理解と、それらを直感的に感受し、共感的に受けとめる感性や人権感覚の涵養を基盤とした豊かな人間関係が築かれた中で、自他の人権を守ろうとする意識・意欲・態度、実践的な行動力など、児童生徒の様々な資質や能力の育成をめざす。

○調査研究の概要

人権尊重の視点に立ち、児童生徒一人一人が尊重されるとともに、互いのよさや可能性を認め合い、豊かな人間関係を築く児童生徒の育成をめざした学校・学級づくり、授業づくりについて研究する。また、教科等横断的なカリキュラム・マネジメントの推進等、組織的に人権教育を推進するための校内推進体制の確立と、人権教育に係る教職員の資質及び指導力の向上を図るための研修活動についても研究を進める。本研究指定校を、本県の人権教育推進の核と位置付け、実践事例や研究成果を県内に広めることによって人権教育の一層の充実を図る。

2. 基本情報

研究指定校の概要

○学校名

野々市市立御園小学校

○これまでの研究指定等の状況

平成 29 年度 石川県教育委員会指定 いしかわ道德教育推進事業
令和 4 年度・令和 5 年度
文部科学省指定 人権教育研究指定校人権教育研究指定校
石川県教育委員会指定 人権教育推進校

○学級数

21 学級（うち特別支援学級：2 学級）

○児童生徒数（R.5.5.1）

全児童数：624 名

○URL

<https://cms1.ishikawa-c.ed.jp/misone>

○指定理由

野々市市は、県庁所在地の金沢市に隣接し利便度が高いことから2年連続「住みよさランキング」総合1位になるなど、若いファミリー世代を中心に人口増加が続いている。

研究指定校は、野々市市の北部に位置し、野々市駅周辺から国道8号線の主要幹線道路までを含む広い校区である。近年は住宅開発が進み、児童数の増加が見込まれている。古くからの街並みがある一方で、他地域からの流入も多く、児童の家庭環境には様々な価値観が存在する。そのことにより、対人関係面での問題が多く生じている。

児童は、好奇心旺盛で学習活動に積極的に参加する子が多い。一方で、関わり合いが苦手な子や、自己肯定感が低く自分の考えを伝えたり広めたりすることへの苦手意識がある子も多く、エビデンスに基づいた効果的な手立てを探り続けている現状がある。

このことから、「温かな人間関係づくり」を土台に、お互いの価値観を認め合い、尊重できるための人権教育を校内で浸透させながら、家庭・地域と連携したさらなる波及効果を生み出す取組が必要であると考えた。引き続き研究校に指定することで、組織的な人権教育の推進及び具体的取組の実際を広く普及できるものと期待する。

○取り組んだ人権課題について

該当するものに○印、最も主要な人権課題 1 つに◎印を付与

①子供	○
②女性	
③高齢者	○
④障害者	○
⑤ <u>同和問題</u>	
⑥ <u>アイヌの人々</u>	○
⑦ <u>外国人</u>	○
⑧- 1 HIV 感染者等	
⑧- 2 <u>ハンセン病患者等</u>	○
⑨刑を終えて出所した人	
⑩犯罪被害者等	
⑪インターネットによる人権侵害	◎
⑫北朝鮮当局による拉致問題等	
⑬性的指向、性自認	
⑭その他 ()	

3. 調査研究の内容等

○調査研究の内容

〈研究の仮説〉

発信をキーワードに据えて、教師が「友達と関わり合いながら考えの深まりを実感できる授業」、「異年齢交流を通して相手の優しさに触れたり、相手に優しく接したりできる活動」、「人権についての課題を知り、自他の大切さを認めることができる場」を構想・実現し、児童の自己肯定感を高めながら豊かな人間関係を築いていく。

〈研究の重点〉

●重点目標Ⅰ 自他のよさを実感できることを大切にした授業づくり

【価値的・態度的側面、技能的側面】

- ①相手の話を聞き、考えを発信する力の育成
- ②生徒指導の視点を生かした授業の具体化と児童への勇気づけ

●重点目標Ⅱ 豊かな人間関係づくりを土台にした学級・学校づくり

【価値的・態度的側面、技能的側面】

- ①いじめ・不登校の未然防止に向けた取組
- ②異年齢交流活動の推進
- ③話し合う力の育成と児童が成果を実感できる掲示の充実

●重点目標Ⅲ 個別的な人権課題への理解

【知識的側面】

- ①子供（全学年 学活・特別活動）
 - ③高齢者（4年 総合） ④障害者（4年 総合） ⑥アイヌの人々（4年 総合）
 - ⑦外国人（3年 総合） ⑧-2 ハンセン病患者等（6年 保健体育）
 - ⑪インターネットによる人権侵害
- （1・2年 道徳・学活、5年 社会・国語・学活、全学年 道徳・学活・特別活動）

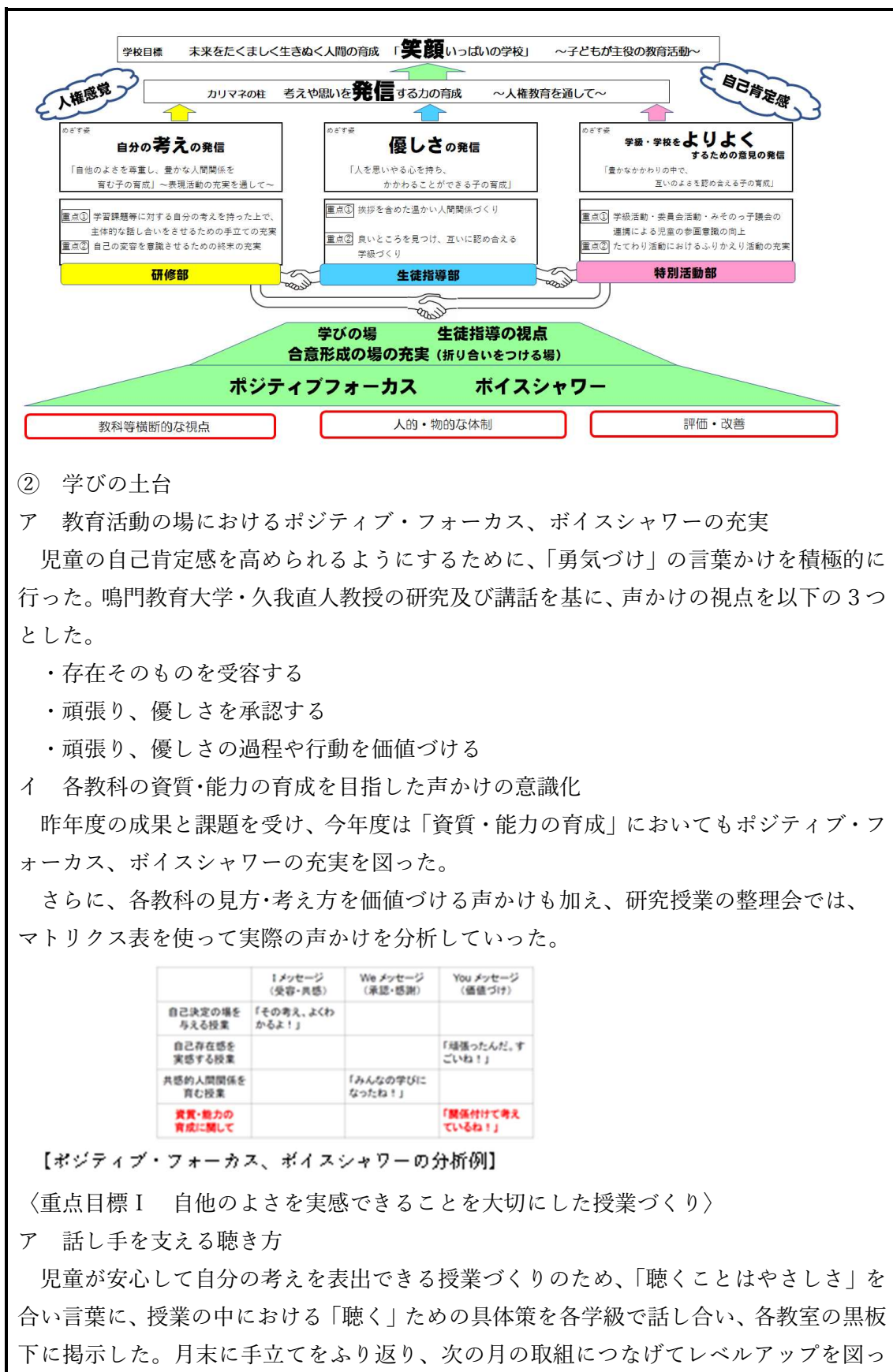
○実施方法

〈カリキュラム・マネジメントの改善〉

カリキュラム・マネジメントの柱を「考えや思いを発信する力の育成～人権教育を通して～」とし、3分掌でカリキュラム・マネジメントの構想を整えた。

① 3分掌（研修部・生徒指導部・特別活動部）における目指す児童の姿

3分掌それぞれが目指す児童の姿を明確にし、実践への共通理解を図った。3分掌から提案される取組に、ポジティブ・フォーカスの場面とボイスシャワーの例を示すことで、児童のゴールの姿をより明確にして共有できるようにした。



た。

イ 生徒指導の視点を生かした授業の展開

全ての児童に出番を与え、自他のよさを尊重し豊かな人間関係を育むための手立てとして、授業において生徒指導の視点を基盤とした取組を行った。目指す授業像の具体を設定し、毎月の学年会で効果的な手立てを交流し、実践を重ねた。

- ・ 自己決定の場

「児童が自ら課題を発見し追究していく中で、自ら考え判断し、表現できる授業」

- ・ 自己存在感

「児童一人ひとりに、学ぶ楽しさや達成感を実感させることのできる授業」

- ・ 共感的人間関係

「互いに認め合い、学び合うことができる授業」

ウ 積極的な ICT の活用

授業内で1人1台端末を活用し、意見の可視化や共有場面を積極的に設けることで、意見やまとめを協働して練り上げる経験を多く積ませた。授業以外にも、運営委員会が「ののいちデジタル・シティズンシップ教育」の取組で、市内小中学校のWeb ミーティングやクラウドを利用した意見交流の機会に参画するなど、校内における「ICT の善き使い手」としての先導役を担った。

〈重点目標Ⅱ 豊かな人間関係づくりを土台にした学級・学校づくり〉

① あいさつ運動

生活目標とつなげて段階的にあいさつの対象を広げた。また、主体的にあいさつ運動に参加できるよう、各学年で取組を考えた。

② いいところ見つけ

友達のいいところを見つけ、相手に伝えたり、全体に感想を広めたりした。

③ 感謝の手紙

生活目標の取組として、行事や縦割り活動などの頑張りを認め、学級や他学年の児童に対して感謝の気持ちを伝えるとともに、自他のよさを実感できるようにした。

④ ハッピータイム・みそのっこ文化祭

異学年集団の活動を通して、互いを認め合い、思いやる心の育成を目指して、月1回程度、縦割り班で遊ぶ活動を行い、下級生が楽しく交流できるような活動を4～6年生が企画した。児童が集団での役割を自覚し協力して活動することで、自己肯定感の向上を図った。

⑤ みそのっ子議会

運営委員会が中心となり、各委員長と各学級代表とともに児童会目標達成のためにどんな取組ができるのかを話し合った。各委員会や学級からの取組を聞いた上で、相互によいところを伝え合おうとする姿が増えてきた。

⑥ 学級活動（話し合い活動）

全校共通の学級会プレートを使用し話し合う経験をしていくことで、集団が変わっても自分達で話し合いを進められるようにした。児童が友達の意見を受け止める姿や、学級・学校をよりよくする意見を出す姿に対して、教師が積極的にフォーカスし、ボイスチャワーをかけることで、交流がより活発になるように試みた。

〈重点目標Ⅲ 個別的な人権課題への理解〉

各学年の発達段階に応じて、ゲストティーチャーを活用し、教科等横断的な視点をもちながら各教科及び総合的な学習の時間において実践を積み重ねた。

・ 1、2年生

道徳科の学習で、自分の身の回りには、きまりがあることを知り、そのきまりがあるわけを学習した。また情報モラルに関連して、ルールを守ると自分も周りも気持ちよく過ごせることを理解し、よいと思うことを進んで行う態度を育んだ。

・ 3年生

総合的な学習の時間で「野々市のステキ」と題して、野々市市のステキな人・物・ことについて考えた。「ステキ」の1つとして、国際友好親善協会を取り上げ、「外国人」も含め、全ての市民への思いがあることに気づくようにした。

・ 4年生

総合的な学習の時間で、視覚障害者をゲストティーチャーに招くなどの機会を設定し、「みんなが住みよいまち」と題して、高齢者や障害のある人が住みよい町について考えた。「みんな」の1つとして「アイヌの人々」についても学習し、さまざまな文化をもつ人々を含めた「住みよいまち」について考えを深めた。

・ 5年生

社会科「情報化した社会と産業の発展」の单元の中で、「情報を生かす」ことについて学習する際に、「インターネットによる人権侵害」について触れた。情報を正しく活用するためには、人権を尊重する意識がいかに大切であるかについて考えながら、学習を進めた。

・ 6年生

体育科での保健の学習を通して、「感染症の予防」や「感染症について正しい知識をもつことの大切さ」について学習を進めた。その中で、ハンセン病についても触れ、感染症への正しい理解を進め、差別や偏見を社会からなくしていくことの大切さについて考えた。

・「子供主体のルール作り」への参画

市で統一した情報モラルに関するルールである『ののいちGIGAスクール宣言』の見直しを図るため、市内小中学校全7校の代表児童生徒が集まり、Webミーティングやクラウド上で行われた意見交換や協議に参画した。「小中学生・教師・保護者のみんなが幸せになるICTの使い方」という共通テーマに沿って、運営委員会が人権感覚を大切にしながら、5年生の取組による視点を加える形で各クラスの意見を集約し、御園小

学校としての意見を積極的に発信した。

4. 検証・評価・改善・普及

① 人権アンケート

昨年度、今年度と児童の実態を把握するためのアンケートを年に2回実施した。

(4段階評価… A:そう思う B:まあまあそう思う C:あまりそう思わない D:思わない)

単位 (%)	自分や友達のよいところ を見つけていますか。				周りの人にやさしくして いますか。				周りの人にやさしくして もらっていますか。				友達といのは 楽しいですか。			
	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
R4 前期	56.0	34.4	7.2	2.4	70.4	25.8	2.9	0.9	46.9	39.1	10.2	3.8	84.9	12.2	1.8	1.1
R4 後期	53.0	35.9	9.3	1.8	66.9	28.3	4.0	0.8	37.5	47.3	12.2	3.0	80.8	16.7	1.8	0.7
R5 前期	47.1	41.6	8.5	2.8	57.2	38.3	3.8	0.7	59.3	34.1	5.0	1.6	82.2	15.6	1.5	0.7
R5 後期	54.2	37.3	6.5	2.0	56.7	38.3	4.5	0.5	63.5	30.9	5.0	0.5	84.3	13.0	2.2	0.5

昨年度の結果から、「自分は周りの人を大切にしている」という意識は高いが、「周りの人から大切にされている」という意識は高くない傾向にあることが分かった。そこで、今年度は、ポジティブ・フォーカスする場面を共通理解し、ボイスシャワーを体系化することで、児童の言動をより価値づけるようにした。

今年度の結果からは、「周囲の人から優しくしてもらっている」と感じる児童の割合が増加していることが分かった。これは、言動及び行動の価値づけの繰り返しによって、児童が気づかずに見過ごしてしまっていた「自分の価値ある行動」や「周りの人がしている価値ある行動」に、少しずつ気づけるようになったからと捉えている。

② 実践のふり回り

カリキュラム・マネジメントの柱と構想を整えたことで、3分掌それぞれが目指す児童の姿を明確にし、実践への共通理解を図ることができた。教師で目指す方向を揃え、組織的に取り組むことで、教師が的確に児童にボイスシャワーをかけることができ、児童が自他のよさを実感できる姿につながっていった。また、どの場面でどのようなボイスシャワーをかけることが適切かを考えることで、教師の人権感覚を高めることにもつながったと感じている。

また、重点目標に関わる取組の「自他の良さを実感できることを大切にした授業づくり」では、「聴くことはやさしさ」を合い言葉に取り組んできたことで、児童が自分と違う意見をもつ友達を受け入れる聴き方や自然な反応をする様子が見られるようになった。しかし、マトリクス表でポジティブ・フォーカス、ボイスシャワーを分析すると、友達の意見を受け入れ認める姿や、学習規律、学級づくりに関するものが多く、各教科の資質・能力に関するものは前者に比べると少なかった。児童の思考の変容には、教師が各教科の資質・能力を育む視点を大切にしたボイスシャワーをかけていく必要がある。それが、児童の学習意欲の質的向上につながり、自己肯定感もさらに高めていくことにもな

と考えている。

「豊かな人間関係づくりを土台にした学級・学校づくり」においては、教師が児童のよい姿とその姿を見つけた児童の双方を認め褒めてきたことで、友達のよいところを見つけて発信することは価値のあることとして児童に広まりつつある。また、児童の主体的な活動を促進するために、学級活動（１）の話合い活動や委員会活動、みそのっ子議会において、話合いの方法を提示し取り組んできたことで、話合いの流れや聴き方・話し方のスキルも高まりつつある。しかし、話合う内容や取組のねらいにおいては、教師がコントロールする場面がまだまだ必要であり、また、実践後のふり返しを行う場面も少ない。自分たちの話合いや実践のよい点や改善点を見つけ出し、新たな課題から次の活動につなげていくことが大切である。

5. 人権教育に係る年間指導計画

第1学年 教育課程年間指導計画

[illegible]

学校研究に関わる①の(灰色)学力向上に関わる②の(学)人権教育に関わる③の(太字)GIGA④の教科のつながり(欠印)

[illegible]

[illegible]

第1回定章に關するもの(辰色)・第2回定章に關するもの(青)・人間教育に關するもの(文庫)0034(6)教科のつながり(黄色)

[illegible]

学校研究に関わるもの(灰色)学力向上に関わるもの(学)人権教育に関わるもの(太字)GIGA(G)教科のつながり(矢印)

[illegible]

第6学年 教育課程年間指導計画

[illegible]

6. 推進体制（都道府県・指定都市教育委員会を含む）

